

グローバルフェスタ・ボランティアに参加して

井上 明菜

「カンボジアに行ったことはあるんですか?」「クメール語読めますか?」「韓国に興味があるとか?」これらは私が今回ボランティアとして参加した 2 日間でブースに立ち寄ってくれた方々から尋ねられた質問です。答えは「NO」です。実際に「いえいえ、全然そんなことないですよ〜」と答えると、みなさん、じゃあ何故?という表情をされていました。

ではこうして無事 2 日間のボランティアを終えた今改めて自分がカンボジアや韓国に興味を持つようになったかといえ、こちらも「NO」という答えになるかと思うのです。

私が今回の日韓アジア基金のボランティアに参加したきっかけは知人のスタッフさんからの紹介が直接的なものですが、喜んでお手伝いしたいと思った理由は「2つの国が協力して第3国をサポートし、その活動を通じてお互いの仲も深めていく」というコンセプトに共感したからにほかなりません。

日韓アジア基金の場合、それが日本・韓国・カンボジアとなるわけですが、こうしたトライアングルがみえる活動をしている団体は私にとってはとても珍しく、またこれこそ「グローバルフェスタ」の名にふさわしいと思ったからこそ、当団体のボランティアの立場でフェスタに参加したのです。



よって先の質問に戻ると、今回の活動を終えて、私は「カンボジア」「韓国」といった1国1国に対する興味よりも、違う文化のもとで暮らす人間たちの相互理解を深めることの重要性によりいっそう興味を抱くようになりました。

次に 2 日間のボランティア詳細につき感じたことを 2 点紹介します。

まずはなんといっても参加している方々に若い方が多いということです。スタッフ・ボランティアはもちろん、ブースに立ち寄ってお話を聞いてくれたお客さんなど、熱心な学生の方と多く知り合い、一緒に活動して、私自身身が引き締まる思いでした。学生のうちから学校やサークル以外の団体のボランティア活動に興味をもち、そして色々な年齢・立場の人間が集まるこうしたコミュニティのなかに実際に飛び込んでいくことは、最初はかなり勇気がいりますが、少しでも興味があるならやってほしいです。自分に何ができ、

また何をすべきかといったことがみえてきて今後の人生のヒントになるのではないのでしょうか。今年唯一の社会人ボランティアとしてそのように思いました。

もう1点は、他団体のスタッフからもとてもよく声を掛けて頂いたということです。正面は「日韓アジア基金」、しかし背中には「カンボジアの子どもに教育を」と書かれたグリーンの特シャツの存在感は抜群でした。

GFにはカンボジアの支援をテーマにした団体が他にもありましたが、特シャツを着た私がふらりと立ち寄ると皆さんからその由来を尋ねられ、説明をすると非常に興味深く聞いてくださいました。

日韓アジア基金ではブースでの募金活動時、「65円の募金にご協力お願いします」と呼びかけます。前を通りがかる人に「どうして65円なんだろう？」という興味をもってもらうことから全ては始まるのです。それと同様のことがこのグリーンの特シャツにも当てはまり、大きな役割を担っているのだと思うと、私はそれを着て会場内を巡るのが楽しくて仕方なかったのです。

日韓アジア基金は、GF出展以外にも様々なイベントを開催しており、そのどれも「2つの国が協力して第3国をサポートし、その活動を通じてお互いの仲も深めていく」というコンセプトに根ざしたものです。またぜひお手伝いさせて頂ければと思います。